

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 5月 31日

事業所名 ハピネス

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4			
	2	職員の配置数は適切である	4		職員の男女比含めて適切な職員配置になっています。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4		床マットを敷き、段差を無くしてバリアフリー化しています。	必要に応じて手すり等の設置を検討していきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4		・毎日児童の利用開始前や利用後に清掃を行っています。 ・各活動に合わせてエリア分けを行っています。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4		ミーティングを日々行い、児童の支援内容に関して話し合いや振り返りを行っています。	日々の児童支援等について報告・連絡・相談を徹底して行っています。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4		保護者様からの頂いた貴重なご意見を基に職員ミーティングで全体へ周知し、業務改善を図っています。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4		自己評価及び保護者評価を基に職員ミーティングで共有・周知を行っています。また、ホームページでも公開しています。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	1	第三者による見解を基に業務改善へ繋がっています。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4		社内研修等、年に4～5回ほど行っています。	
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4		支援会議等で児童と保護者のニーズに即した計画書を作成しています。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4		保護者から提出して頂いた事前情報等を用いています。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4		保護者や相談員等から得た情報やニーズを基に具体的な支援内容を設定しています。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4		個別支援計画書を基にプログラムや支援を行っています。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	4		毎月の活動プログラムや季節に沿った活動を職員間で話し合っ	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4		て立案し、活動を行っています。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成している	4			
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4		毎朝の職員ミーティングで支援内容等の確認を行っています。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4		送迎終了後、当日の支援等について話し合いや振り返りを行っています。	
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4		日々の支援に関して職員間で記録や話し合いを常に行い、今後の支援への検証・改善を図っています。	
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4			
	関係機関や保護者との連携	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4		
22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		4		利用児童と関わっている関係期間と連携を図りながら一貫した支援を行っています。	
23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている					医療的ケア児や重症心身障害の児童が在籍していません。
24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている					医療的ケア児や重症心身障害の児童が在籍していません。
25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		4		モニタリングや担当者会議等で情報共有を行い、相互理解を図っています。	
26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		4			

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	27	2	2	専門の講師を招いて研修や勉強会を行い、助言を頂いています。	
	28		4		現在在籍している児童は並行通園で保育所や認定こども園、幼稚園等との交流機会を設けていないため、今後交流する機会を持てるような活動を検討していきます。
	29	3	1		今年度初めて参加。今後も積極的に参加出来るよう努めます。
	30	4		連絡帳や自宅送迎時の申し送り、LINE等を活用しています。	
	31	3	1	児童に合わせた対応を行うとともに保護者からの相談への助言を行っています。	当事業所ではペアレント・トレーニングを実施していないため、今後は自治体や地域団体、専門機関から得た情報を保護者へ案内するとともに、職員研修も検討していきます。
保護者への説明責任等	32	4		契約時など、保護者と一緒に読み合わせしながら詳細を説明し、同意を頂いています。	
	33	4			
	34	4			
	35	2	2	前年度、専門の講師を招いて勉強会と保護者会を同時に行いました。	今後、保護者会を定期的で開催し、保護者間の連携を図れるよう計画を進めていきます。
	36	4		児童や保護者からの相談・申し入れに関して職員間で情報共有等を図り、状況に応じた整備・対応を行っています。	
	37	4		毎月配布したり、ブログにて発信しています。	
	38	4		職員間で意識して取り組み、個人ファイル等に関しては鍵付きのロッカーで厳重に保管しています。	
39	4				

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		4		地域との交流の機会を増やしていけるよう今後の活動を検討していきます。
非常時等の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4		対応マニュアルを作成し、発生時の職員個々の担当や役割等について周知・徹底しています。また、年に2～3回災害訓練を実施し、訓練後の話し合いの中で改善点が出た際にはマニュアルの見直しや変更を加えています。	今後も地域のハザードマップや対応マニュアルを基に訓練の実施や職員間での周知・徹底を図りながら努めていきます。
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4			
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	4		保護者から提出して頂いた事前情報を用いててんかん発作時の対応を確認したり、服薬が必要な際には服薬依頼書の提出依頼を行っています。	
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4		保護者から提出して頂いた事前情報を職員間で周知しています。また、おやつを提供の際や調理を行うイベント等の際には、食品の原材料等を確認しながら対応を行っています。	
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4		事例が起きた際にはすぐに職員間で情報共有し、報告書の作成、ファイリングを行っています。	
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4		担当者を中心に研修への参加や報告会を行っています。	
	47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4		当会社の担当を中心に虐待防止研修を行い、職員への周知・徹底を行っています。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。